

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

# 産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会  
〒870-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1  
産業医科大学 医学部 衛生学講座  
TEL (093) 691-7429  
FAX (093) 691-9341

発行責任者：地方会長 川本俊弘

(題字：倉恒匡徳筆)

## 巻頭言

## 保健師・看護師教育の変遷と 産業看護職の活動への影響

産業看護部会副部長 住徳松子  
(アサヒビール㈱ 博多工場)



筆者は10年ほど前より看護系大学から保健師教育課程の実習を受け入れており、現在は5つの大学から実習や講義を依頼されている。弊社での産業看護実習を経て企業に就職した実習生も複数あり、実習指導者として保健師教育の一端を担っている重責を感じている。そこで、この場をお借りし

て、保健師・看護師養成の変遷と産業看護活動への影響について考えてみたい。

ご存知のとおり、わが国の保健師・看護師の養成は、大学、短期大学、養成所で行われているが、1990年代までは、看護師養成は国立病院附属等の専門学校を中心に行われており、保健師養成は都道府県立の専修学校か短期大学の専攻科が中心であった。看護系の4年制大学は1950年にはわずか2校であったが、平成4年(1992年)の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」制定以降急激に増加し、現在では全国で約200校となっている。

看護系大学の増加に伴い、保健師養成は徐々に大学へ移り、現在では新卒の保健師の9割以上は4年制大学の卒業生であり、看護師についても約3分の1が大卒者である。

看護系大学による看護基礎教育が4年制となり、公衆衛生的視点を持った看護師が育成できるようになったことについての一定の評価はある。しかし、大学の特色を打ち出すために保健師助産師看護師教育科目の相互読み替えが行われたとされるが、平成9年(1997年)の保健師看護師統合カリキュラムが提示されてからは一層、学士課程における看護教育が重視され、保健師の資格取得に必要な専門教育という側面が薄れたという印象は強い。

実際、その変遷を実習受け入れや講義を通して見てきたが、

大学によって労働衛生や産業看護に関するカリキュラムがかなり異なる。特に統合カリキュラムの関連等で授業の選択が行われていた間は、産業看護の実習があるのに労働衛生関連の授業を選択していない学生もあり、実習受け入れ側としては指導に苦労した経験がある。

地域実習の受け入れ先不足についても、大きな問題となったのは記憶に新しいところである。地方自治体や保健所の数は、平成の大合併を機に大きく減少したが、反面、大学数の激増に伴い地域実習が必要な学生数は増加し、全保健師養成機関の定員数で見ると、平成4年までは2000人強であったのが、平成21年には14000人を超え、実に7倍となった。大学での保健師養成は助産師と異なり選択性を許されなかったため、全員が地域実習を経験しなければ卒業できず、地方自治体や保健所など実習先確保は次第に困難となっていった。

実習内容についても、専修学校時代の実習では、保健指導や集団教育、家庭訪問など指導保健師からマンツーマンで指導を受けることができたが、現在はほとんど見学で済ませることが多くなっている。実習を受け入れる側も実習生が多く細やかな対応ができないのが現状であり、結果として新任保健師の実践力不足が指摘されている。

看護師についても、新人期の離職率の高さや、新卒者の看護技術不足という問題があり、それらの問題解決のため、平成21年7月に議員立法において、保健師助産師看護師法が改正された。保健師・助産師の教育年限は6ヶ月から1年以上に変更され、看護職の新任教育が努力義務となった。

平成21年8月には、大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会において、保健師教育について、これまで学士課程で学ぶ全学生が履修するものとされてきたが、大学による選択制の導入を可能とすることが提言され、今

後、保健師教育は選択性となり、将来的には大学院教育へと進む可能性も高い。

産業看護学は検討会において保健師教育課程に位置づけられ、基本となる学問としては地域看護学から公衆衛生看護学へ変更となり、産業看護においては保健師教育が基本となることが確認された。

法改正がやっと現状に追いついた感はないが、産業看護に携わるものとして、この変化は前向きに受け止めた。何故なら、講義や実習を通して学生に触れていると、地域実習を修了していても、保健師の職能を理解していない者が多く、ましてや大学の講義だけでは到底理解できないことがわかる。また、臨床志向の学生の実習を受け入れることについては、現在のカリキュラムでは仕方ないと理解していても、産業看護志向の学生と同じエネルギーを必要とするため、虚しさは禁じえない。

保健師の新任教育の中にも、産業看護は組み込まれる予

定であり、実際のカリキュラムについては職能団体である看護協会と日本産業保健師会が中心となって協議しているが、今後は、日本産業衛生学会産業看護部会にも学術団体としての役割が期待されていくものと思われる。

先日、福岡県看護協会の研修会で、保健師学校時代に実習でお世話になった指導保健師と20数年ぶりに再会した。実習以来お会いする機会がなかったが、劣等生であった筆者を憶えてくださっており大変感激した。

看護教育において実習は、指導者との距離が近く濃密な時間を共有することから、職業選択や人生の岐路において、良くも悪くも方向性を決定付ける可能性がある重要な教育課程ではないかと考える。実習指導者との再会を機に、これからの学生と共有する時間を充実したものとし、大いなる可能性を秘めた後輩たちに保健師および産業看護の魅力伝えていきたいと決意をあらたにした。

あいさつ

## 新年のご挨拶

日本産業衛生学会 九州地方会長 川本 俊弘  
(産業医科大学 医学部 衛生学講座)



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は3月に東日本大震災が発生し、さらに福島第一原子力発電所の事故が発生しました。被災されました方々には心からお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い復興を祈念しております。

11月には第21回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会が開催されました。織田進企画運営委員長のもと九州地方会の産業医部会、産業看護部会、産業衛生技術部会、産業歯科保健部会の4部会の関係者の方には、全力を傾けて準備、運営をしていただき、お陰様で大成功を収めることができました。この場を借りて御礼申し上げます。

現在、日本企業を取り巻く経済状況は厳しさを増しています。東日本大震災は東北地方にとどまらず、日本全体、さらには世界中の産業や経済に大きなダメージを与えました。東北地方の工場生産される部品が届かず生産中止に追い込まれた企業が数多く出ました。また、7月から続いたタイ国大洪水では多くの日系企業が操業中止に追い込まれ、未だに再操業のめども立たない状況です。さらにギリシャに端を発したユーロ債務危機は、スペイン、イタリアに飛び火し、フランスさえも危ないのではないかと噂が流れています。一方、日本の借金は平成23年度末には

1000兆円を超えるとの報道もあり、日本国債暴落の噂が絶えません。このような先行き不透明な状況で世界のお金はより安全な運用先、確実な投資先を探してうろうろとしています。

しかし、個人にとって最も確実な投資先は自分であるということを忘れてはいけません。自分の知性と健康に投資すべきです。日本が第二次世界大戦後に廃墟の中から復興したのは先人達がしっかりと立ち上がり、汗をかいて頑張ったことによるものです。健康でさえあれば何が起きても必ず再起できます。このような時代であるからこそ目の損得にとらわれず、企業は従業員の健康に、労働者は自分の健康にもっと投資すべきではないでしょうか。

この意味で日本産業衛生学会の社会的責任は大変重いと考えております。昨年福岡で開催された第21回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会は、まさに企業における従業員の健康、労働者における自分の健康を考えるものであり、有意義な討論がなされました。昨年の干支「卯」は草木が地面を蔽うようになった状態を表し、今年の干支「辰」は草木の形が整った状態を表しています。昨年の全国協議会のディスカッションを糧に、今年は健康への投資をより高めてみましょう。



## 研究紹介・学会報告

## 平成23年度産業看護研究会報告

田 中 節 子

(J R九州)

去る9月10日、産業看護部会主催の「産業看護研究会」を開催いたしました。

今回は50名の受講者とともに、精神科医療について学びました。

まずは『福岡県における精神科救急の現状～雁の巣病院の取り組みから～』をテーマに、医療法人優なぎ会雁の巣病院・地域支援部の瀬戸山淳氏よりご講演いただきました。精神科医療における法の変遷、入院の様々な形態や手続きなどとともに、雁の巣病院における精神科救急の体制とその実績についてもご紹介いただきました。「精神科病院も待っている時代ではありません。積極的に外に出て行く時代です。24時間、365日の医療を！患者・家族、そして医療スタッフが納得のいく医療を！！」と語られたのが印象的でした。

講演の二つ目では、同病院院長の熊谷雅之氏より『アルコール関連問題対策の最近の動向』と題して、アルコール依存症の身体的な変化やチェックポイント、治療や周りの人の対応の仕方などを具体的にお示しいただきました。

アルコール依存症は「否認の病」と言われ、それだけ見つけにくい病気でもあるわけです。にもかかわらず、アルコールは、精神依存性と身体依存性の両方を併せ持つモルヒネと同様の作用があるとのことでした。また、最近とくに問題となっている飲酒運転ですが、飲酒運転で2回以上検挙されたことのある人の25%以上はアルコール依存症であろうということでした。アルコールはプライベートでも業務上でも私たちにとても身近なものですが、そこにある関連問題の深さ大きさ、アルコール依存症の治療の意義とその難しさを感じる研修会となりました。

暗くなりがちとも思えるテーマでしたが、講師の情熱的な人柄にふれ、こちらまでエネルギーをもらえたような気持ちで帰途につきました。

産業看護部会では、今後も産業看護研究会のテーマについて皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。また、産業看護部会会員以外の方の受講も歓迎いたします。

第21回産業医産業看護全国協議会  
に関するお礼

織 田 進

(福岡産業保健推進センター 所長)

アクロス福岡および西鉄イン福岡において、平成23年11月23日(水)～11月26日(土)に、第21回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全



国協議会を無事終了いたしました。開催の準備、運営に当たっては、日本産業衛生学会、川本地方会長をはじめとして、とくに九州地方会の皆様には、多大のご協力・ご支援をいただきありがとうございました。今回、現在までの集計で、585名(学会員453名、非学会員132名)と予想以上に参加いただき感謝しています。懇親会も152名の出席があり、会場はほぼ満席になり、楽しんでいただいたと思います。しかし、人災および天災による世界的不況は、今も続いており日本の企業も経済的および精神的に余裕がなくなっています。このためもあり、企業広告等による資金的援助に苦戦しました。

各プログラムの抄録は、産衛誌平成24年3月号に投稿予定ですが、シンポジウム 約400名、メインシンポジウム 約450名、産業医部会企画 約200名、産業看護部会企画 約180名 産業歯科保健部会 約30名、リレーワークショップ 67名(写真)、4部会合同セミナー(福岡徳洲会病院)39名、実地研修(トヨタ自動車九州株式会社 37名、株式会社ブリヂストン久留米工場 26名、TOTO株式会社小倉第一工場 44名、株式会社安川電機八幡西事業所ロボット工場 21名、新日本製鐵株式会社八幡製鉄所、総合センター 10名、ポスター演題登録数 45題(医師 32題、産業看護職 13題)の参加でした。

この全国協議会を運営するにあたり、今回のテーマの1つである「人と人との繋がり」の重要性を再認識させられました。人と人との繋がり、すなわち、日頃の良いコミュニケーションについては、事業場におけるメンタルヘルス対策で常に強調してきました。しかし、個人の成果や効率を重視する最近の風潮の中では、頭で理解できても実行されないことが多かったように思います。東日本大震災の教訓として、「絆」が言われていますが、良い絆のない人間関係が増えれば、ストレスのある状況下ではメンタルヘルス不調者も増加すると思いますので、ここで、良いコミュニケーションや良い絆について再考していただく絶好の機会だと思います。

最後に、参加者の皆様、運営に当たられた関係者の皆様に重ねてお礼申し上げます。

## 日本産業衛生学会専門医紹介

## 産業衛生専門医になって

## 轟 木 基

(財団法人 西日本産業衛生会 北九州産業衛生診療所  
健康管理部 健康管理課)



全国協議会中の認定証授与式で、認定証、記念品を頂戴しました。その折り、東委員長から「よかったね」と温かいお言葉を頂き、大変な中頑張ってよかったと思い、嬉しくなりました。また、先輩の先生方、同僚、後輩からお祝いの言葉を頂き、専門医になったことを実感しつつあります。

日頃、嘱託産業医を行い、福岡県周辺へ出回っております。事業所様に常駐する事はできず、信頼関係の構築にも時間がかかります。しかし、事業所様の業務、歴史、風土について理解する一方、外部の人間として助言・指導を行わせて頂く事で、丁度良い距離感で労働衛生管理活動に関わっています。

また、当会契約の一部の事業所様を産業医科大学の専門修練医の先生方をお願いしております。小職、卒業生である事もあり、ご相談を受ける、指導をさせて頂く機会があります。更に当会に所属する医師へ情報提供を行う、事例検討を行う機会もあり、それらを通じ、知識のブラッシュアップの面、コミュニケーションの鍛錬の面で、自分が勉強になっています。

専門医研修、試験を受ける事を通じて感じていることは、産業保健の幅の広さ、そして深さでした。有り難い事に専門医の認定を頂きましたが、それは産業保健の入口に立ったに過ぎないのではないかと思います。

リーサーチマインドと言う点では、大学で修練を積んでいます時、ナノマテリアル等を曝露の動物モデルの肺傷害の検討を行って、物質の有害性評価の一端に関わる事ができました。しかし日々の産業医を行っていく中で、問題提起して、仮説を立て、調査、検討を行っていく様な事はあまりありませんでした。事業所様での問題について、研究に生かして行く事から始め、様々な業種の事業所様に関わる事ができる利点生かしていければと考えています。

これからも地域で産業保健活動を行い、より質の高いものを提供していくために、研鑽を積んでいきます。ご指導・ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

最後に、指導医としてご指導を賜りました東敏昭先生、森本泰夫先生に心より感謝申し上げます。

産業衛生学会専門医になったの抱負  
～専門医受験から得たもの～

## 黒 木 弘 明

(財団法人 西日本産業衛生会 本部 保健企画部長)



この度、2度目の受験で念願の日本産業衛生学会専門医試験に合格することが出来、喜びをかみしめると同時に、その重責に身が引き締まる想いです。

私は労働衛生機関に在籍して4年間の経とうとしておりますが、入職当初は産業医活動の他に、それまで殆ど実経験の無い産業保健

事業の管理業務までも頂いたこともあり、「日々の業務遂行で精いっぱい」と、自分で限界を作り出していたことを思い出します。しかし、顧客である地域中小規模事業場様をはじめ、別職種の財団同僚、諸先輩方など様々な方々との経験の共有から、次第に自らに与えられた使命を痛感するようになり、労働衛生に関して不勉強であったそれまでの自分に鞭を打ち、新たな自分を創りだすために受験に至りました。

この受験とその過程において、改めて実感致したのは「自分が勉強嫌いなのは、勉強によって無知な自分が露呈することに抵抗感を抱いていたからに過ぎないこと」「全ての知識が、自分次第で即、事業場様のためになること」「あらゆる法令の背景には、多くの方々の努力と経験があること」など、当たり前と言えば、全くもって当たり前前の事実でした。当たり前と言うことは、すなわち「自然であろうとすること」であり、一種の固定概念によって描かれた「あるべき姿でいることが普通であること」と示すこととは、異なるように感じています。

一方で私たちが向き合っているのは中小規模事業場ですが、その労働衛生像には未だ発展途上の部分も多く、法令の遵守状況なども合わせると、大規模事業場と比してなかなか理解されにくい状況にあると言われています。しかし、このたび産業衛生専門医として私に与えられた使命のことを想えば、この中小規模事業場の労働衛生を通して人間の労働の実情を見て、感じて、受容した上で、共に「労働者としての自然な姿」を目指していくことこそが、今の私の目標であると考えてるのが「自然である」と言えるかと思います。

最後にこの場を借りて、支えてくれた家族、同僚と、辛抱強くご指導下さった諸先生方に深く御礼申し上げます。





## 専門医となって

森 朋 子

(財団法人 福岡労働衛生研究所)



(財)福岡労働衛生研究所、産業保健事業本部の森朋子と申します。私は、当研究所にて主に中小規模事業場の嘱託産業医活動を行っております。この度、平成23年度日本産業衛生学会の専門医として認定を頂くことができ、この場をお借りして、今までご指導いただいた先生方やお世話になった方々

に感謝を申し上げたいと思います。

ご存知の方も多いかと思いますが、福岡労働衛生研究所は、昭和36年に創立され「労衛研」として親しまれる総合労働衛生機関として、昨年50周年を迎えました。産業保健事業本部は平成8年に保健事業統括本部から分離し、嘱託産業医を中心に活動を行っており、その活動数は年々増加して現在16名の常勤医師が所属しています。産業医科大学からローテートの産婦人科や耳鼻科、内科等様々な臨床系教室の先生方が多いのも特徴の一つとなっています。平成19年度から、私は同部で統括的な役割を担う立場となり、多様な人材がいる労働衛生機関で「組織的な産業医活動」が出来ないものかと、基本的な産業医業務の標準化や産業保健事業本部全体のレベルアップを目指して、入社時の雇入時研修会や同僚の先生方の協力も得て月1回の勉強会も開始し現在も継続しています。当初自信はありませんでしたが、何とか部を纏めようと努め、さらに部内のコミュニケーションや企画渉外部、作業環境測定部及び情報管理部等の他部署とのコミュニケーションを図ることも心がけてきました。

さて、嘱託産業医となって10年余りが過ぎ、今回の専門医試験をきっかけに体系的に勉強することで、改めて自分の知識の曖昧さや新たな課題を見つけることができました。様々な業種の数多くの中小企業の産業医を担当してきて、直面する問題（多くはメンタルヘルス関連）に四苦八苦しながら経験を積んできましたが、今思えば、起こった問題を解決することに終始し、長期的な目標や計画を立てることは行ってきませんでした。しかし、今後は、中小企業においても時間がないこと言い訳せずに、産業看護職や衛生管理者等と連携して戦略的で能動的な産業保健活動を目指したいと考えています。また一方で、つい最近も新規事業場を担当し訪問すると、重症の高血圧症や糖尿病が未受診のまま放置され、過去に全く健康診断の事後措置が実施されていない所もあり、「中小企業における産業保健活動」はまだまだ十分ではないと実感しています。微力ではありますが、これから日々研鑽を積んでいく所存でございますので、皆様のご指導・ご支援を何卒よろしくお願い致します。

## 産業衛生学会専門医になって

那 須 幸 平

(ソニーセミコンダクタ株式会社 熊本テクノロジーセンター)



ソニーセミコンダクタ株式会社 熊本テクノロジーセンター 産業医の那須幸平と申します。この度、平成23年度日本産業衛生学会専門医試験を経て、専門医の認定を頂くことになりましたので、近況と自己紹介を交えましてご報告いたします。

私の勤務いたしますソニーセミコンダクタ株式会社は福岡に本社

を置き、長崎県・鹿児島県・大分県・熊本県と2011年11月から宮城県を加えた5県に工場を置く半導体製造業です。私はこの中の、熊本県の工場（熊本テクノロジーセンター；以下、熊本 TEC）の産業医として勤務しております。なお、赴任してから知ったのですがセミコンダクタは半導体という意味で、ソニーの半導体工場の会社と考えていただくとうろしいかと存じます。熊本 TEC で製造しているものは、大きく2つに分けますとイメージセンサー技術（別名「電子の目」と呼ばれ、レンズで集めた映像を電気信号に変える半導体；カメラ用半導体）、Micro Display Device 技術（家庭用～映画館用までのプロジェクターに搭載される液晶パネル）の2つを扱っています。これらの量産戦略を支える最大拠点として設計・開発・製造・サービスまでの一貫体制を構築しています。特にイメージセンサー技術は、熊本 TEC のメイン分野であり、カメラだけでなく、携帯電話、ビデオカメラ、監視用カメラなど幅広く使用されています。

熊本 TEC は2011年に10周年を迎えた新しい工場であり、平均社員年齢も33歳前後と若い社員が多い会社です。そのためか、私の業務の大半が身体疾患や作業環境問題ではなく、精神疾患対応となっております。そのうえ、2011年3月の東日本大震災、熊本の地震（2011年10月震度5強、半導体工場にとっては多大な影響でした）、タイ洪水（関連会社に被害が起り、リカバリー対応中）などなど、社員への業務量増加・精神負担増加が著しい状況です。仕事の山ばかりで谷がなく、次々おこる問題の波に従業員が埋もれて行っています。このような会社の閉塞感を打破すべく、私も色々な手を試行錯誤して行っております。が、己の未熟さが分かるばかりであり、専門医を取った後も研鑽が全然足りていないのをヒシヒシと感じながら業務を行っている日々です。

私自身は、医師9年目になり、専属産業医は足かけ5年目になります。熊本日赤病院で夜昼無く研修していたことが昨日の事のように感じます。世間知らずで短気な自分が、この9年間、たくさんの人との出会いによって少しは成長出来たかな、と自負しています。

最後になりましたが、お世話になった産業医科大学産業保健管理学の方々、日立健康管理センタの方々にも厚く御礼を申し上げます。

## 部 会 報 告

### 産業衛生技術部会の活動報告

産業衛生技術部会幹事 伊藤 昭 好  
(産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科)



産業衛生技術部会は、毎年秋に全国レベルの大会を開催しています。平成23年は設立10周年にあたります。そこで、平

成23年12月10日(土)午後に、第20回産業衛生技術部会大会として、産業衛生技術シンポジウムを早稲田大学西早稲田キャンパスにおいて開催しました。演者と演題は次の通りです。中明賢二先生(麻布大学)に「産業衛生技術の10年とこれから」(写真参照)、宮内博幸先生(産業保健協会)に「第三次産業の安全衛生の現状と対策」、粉川昇一先生(重松製作所)に「呼吸用保護具の防護性能と実際の使用」、中原浩彦先生(エクソンモービル)に「呼吸用保護具の防護性能と実際の使用—企業における実際」、山田憲一先生(中央労働災害防止協会)に「放射線・放射能の測定と管理」についてお話しいただきました。中明先生には産業衛生技術部会設立大会の際にも基調講演をしていただいております。その後の10年間を総括していただきました。10年前の講演では話題としてJCO事故を取り上げておられましたが、奇しくも10周年には福島原発事故が発生してしまいました。原発事故にも関連した演題も用意されていたのですが、残念ながら参加者は20名程度と少ないものでした。これは、当日に産業衛生学会関連のいくつかの会合が重なってしまっていたことも原因の一つと考えられますが、部会の広報活動にも課題が残されました。

また同日午前中には、同じ会場で、第13回産業衛生技術専門研修会として産業衛生技術講演会を開催しております。講師は、小澤正彦先生(株式会社損害保険ジャパン)に「安全衛生の投資対効果」と題して講演していただきました。興味深い演題で、参加者には大変好評でした。今後とも、会員の拡大が、本部会の重大課題だと考えられます。

### 産業歯科保健部会報告

産業歯科保健部会幹事 山 本 良 子  
(財日本予防医学協会九州センター)

去る11月福岡において第21回産業医・産業看護全国協議会が盛会にて無事終了いたしました。産業歯科保健部会では、部会企画として自由集会とフォーラムを開催致しま



した。自由集会では埴岡隆先生(福岡歯科大学口腔保健学講座教授)に「禁煙・受動喫煙とう蝕・歯周病&健口ケアの知識」のご講演をいただきました。

喫煙による影響についての解説や禁煙支援における歯科専門家の役割とその役割を担える範囲の拡大の可能性や禁煙支援の新たな切り口などをご提案いただきました。禁煙指導用のパネルやオーラルケア製品の解説冊子などのご紹介もあり、明日にでも活用できる具体的な内容でした。また世界的な視点から、口とからだ全体の健康に関して、研究の紹介や口腔の持続的炎症が及ぼす影響についてのお話を伺いました。糖尿病と歯周病の関係は、以前から影響が強いことが周知されていましたが、今後はその他に内臓脂肪症候群や特に心血管系の異常について、歯周病菌そのものの影響の他に歯周病の慢性炎症の観点からの関わりを正しく理解し広く適切に説明することが重要になってくることをお話しいただきました。

産業歯科保健フォーラムでは、テーマは「企業を元気にする産業歯科保健」で、築山 雄次先生(医療法人雄之会理事長、佐世保重工業嘱託歯科医師)に、『もし産業歯科保健スタッフが築山ソウルを知ったなら〜「企業の元気をつくる」歯科スタッフに、今できること〜』をご講演いただきました。

開業医の立場で健保と関わり、ヘルスプロモーションを実践していくことで、母体企業との関係を深め企業の元気を作る活動として認知されていったそうです。その過程の中で



は、企業の浮き沈みもありピンチもあったそうですが、企業に必要とされる存在で居続けたことが最大の強みであったそうです。そのことを証明すべく、以前産業衛生学会総会において、SSKの経営者が『歯科の活動は、社員に活力を与え会社に利益がある』と明言されたことがありました。必要とされるためには、まずは診療室から飛び出し様々な場面で企業経営者や社員と向き合い、まずは耳を傾け相手が必要とすること、相手に必要であることを本気でぶつけ続けてきた賜物のようです。

現在では、築山先生が敷いたレールの上をスタッフが着実に進んでいっているため、スタッフにお任せしたままで運営や新しい企画なども進んでいくそうです。現在、SSKの歯科室を切り盛りし、歯科保健のみならず、新入社員・研修生の研修を行うばかりか管理職の人材育成研修にまで借り出されるという歯科衛生士の高梨さんにもフロアから発言をいただきました。



企業或いは歯科スタッフが、能動的に歯科保健活動の決定要因をコントロールし改善実践していくプロセスは、まさにヘルスプロモーションであり、築山先生健康づくり戦略により、ヘルスプロモーションの図にある坂道を、いつの間にか緩やかにしていったのではないかと感心しきりでした。リーダーの要件もこの辺りにヒントがあるようでした。

まずは唱道 (advocate) してやることから始めたいと思います。

次の名古屋で開催される第85回産業衛生学会総会では、産業歯科保健フォーラム「共通生活習慣病リスク予防と口腔保健の役割」コモンリスクファクター/健康ファクターアプローチにより産業保健関係者が連携して、う歯・歯周病の予防を含め、産業保健、および生涯を通して自らの健康づくりを目指すための口腔保健の意義を議論してまいります。

H24年度前期研修会では、テーマ「歯科医療従事者の労働衛生」を予定しています。他部会からのご参加もお待ちしております。

## 産業看護部会活動報告

産業看護部会副部長 住 徳 松 子  
(アサヒビール(株) 博多工場)



産業看護部会にとって、九州各県の産業看護職の交流は重要なテーマです。しかし、福岡県外の産業看護職の学会入会率は高くはなく、そもそも九州各県の企

業に勤務する産業看護職の実数を把握できていないというのが現状です。そんな中、佐賀市で開催された平成23年九州地方会学会では、産業看護部会の看護職（主に福岡県からの参加者）と佐賀県産業保健研究会（佐賀県の産業看護職の組織）の会員との交流会を開催いたしました。平成21年には沖縄でも同様に交流会を行いました。今回は参加者も多く大変盛会となりました。今後も九州内の産業看護職の組織強化を目指し、交流事業を行っていききたいと思います。

さて、平成23年は第21回産業医・産業看護全国協議会が福岡で開催されたこともあり、産業看護講座実力アップコースは休止させていただき、産業看護研究会を前倒しし、平成23年9月10日(土)に開催いたしました。今回のテーマは精神科救急とアルコール関連問題で、アルコール治療で有名な福岡市の雁の巣病院からお二人の講師をお招きしました。精神保健福祉士・臨床心理士の瀬戸山淳先生に

「福岡県における精神科救急の現状」を、熊谷雅之院長には「アルコール関連問題対策の最近の動向」について、ご講演いただきました。講演の内容は実践に役に立つものや産業看護職の心得として知っ



ておこなうとはいけないことなど多岐に亘り、40名以上の参加者からも大変充実した内容だったとの感想をいただきました。

平成23年は全国協議会が開催され、産業看護部会は例年の活動予定を変更することになりましたが、全国協議会も無事に終了し、24年は産業看護部会柴戸会長の下、九州地方会学会を開催する年です。労働安全衛生法の改正も控えており、産業看護職の役割や責任に大きな変化が起こると予想されます。社会の期待に応えられるよう、産業看護部会では、今後も九州の産業看護職の能力向上に役立つ活動を展開したいと考えております。福岡県以外の産業看護職の皆様についても入会をお待ちしております。

## 学会案内

### 平成24年度日本産業衛生学会 九州地方会学会 (第2報)

1. 会 期 平成24年7月13日(金) 14:00~17:00  
14日(土) 9:30~17:00
2. 会 場 九州大学医学部 百年講堂  
福岡県福岡市東区馬出3-1-1  
(福岡市営地下鉄箱崎線  
馬出九大病院前下車徒歩8分)  
<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/100ko-do/>
3. 学会長 柴戸美奈 財団法人福岡県すこやか健康事業団
4. メインテーマ「地域の活力につながる産業保健活動」  
産業保健の対象者は地域で生活する住民であり、産業保健活動は職域や地域といった区別なく、より広い視野をもって展開する必要があります。そのためには、学際的にも現場レベルでも他分野との連携をはかり、その資源を活用することが重要であると考えます。  
そこで、今学会のメインテーマを「地域の活力につながる産業保健活動」とし、福岡大学商学部村上剛人教授による「街づくりの視点から見た医商連携について (仮)」と題した教育講演をはじめ、特別講演にはメンタルヘルスとアルコール関連問題、ランチョンセミナーでは医療費削減や生活の質の向上に欠かせない産業歯科保健の取り組みなど、テーマに沿った企画を進めています。

## 5. プログラム

7月13日 教育講演、一般口演、部会行事、自由集会、懇親会

7月14日 総会、理事会、特別講演、ランチョンセミナー、一般口演

## 6. 一般演題募集

平成24年3月に学会案内をお送りいたします。

演題締め切りは5月中旬、プログラム発送は6月を予定しております。

たくさんのご応募をお待ちしております。

## 7. 会費

参加費 3,000円

懇親会費 6,000円 7月13日(金)18:00~20:00

石倉酒造 博多百年蔵 パス送迎あり

<http://www.ishikur-shuzou.co.jp/>

## 8. 事務局 日本産業衛生学会九州地方会

産業看護部会事務局(中村)

電話 092(262)8502 FAX 092(262)8503

## 理事会報告

平成23年度  
第2回九州地方会理事会報告

平成23年度第2回理事会が、平成23年11月25日(金)13:30~14:15にアクロス福岡7階大会議室にて開催されました。

主な議題は以下の通りです。

- 1) 平成23年度第1回理事会議事録要旨について
- 2) 平成23年度事業・決算報告について
- 3) 平成24年度事業計画・予算案について
- 4) 平成24年度地方会総会開催について
- 5) 平成25年度地方会総会開催地について
- 6) 第21回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会について
- 7) 名誉会員、功労賞の候補者について
- 8) その他

なお、今回の理事会は、第21回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会中に実施されました。理事会では、織田進 企画運営委員長より全国協議会についての報告がありました。

平成24年度九州地方会総会に関しましては、住徳監事より平成24年7月13日~14日に九州大学医学部百年講堂で実施することが報告されました。また、平成25年度地方会総会に関しては、宮崎にて開催することとなりました。

その他の報告事項としまして、東理事と三角理事が平成23年度「安全衛生に係る優良事業場、団体又は功労者に対する厚生労働大臣表彰」功績賞を受賞されたことが報告されました。東理事、三角理事におめでとうございます。

編

集

後

記

織田進先生のリーダーシップの下、九州地方会に所属する産業医部会、産業看護部会、産業歯科保健部会のメンバーのご協力・ご支援により福岡で開催された第21回産業医産業看護全国協議会が成功裏に終了した。一地方会会員としても大きな喜びでした。学会運営に直接関与された織田先生はじめ諸先生方のご努力に対して心より敬意を表します。

本号では「産業看護研究会報告」、「部会(産業看護部会、産業歯科保健部会)報告」、「学会専門医合格者の声」、「全国協議会開催へのお礼」などが掲載されている。原稿を読みながら共通するキーワードは“交流(コミュニケーション)”“人と人との繋がり”であるように感じた。震災・原発事故という未曾有の事象の影響もあるのだろう。同一組織内あるいは組織外の産業保健専門職同士の良好な交流はもちろんであるが、異なる職種や異なる専門分野の人たちとの交流(相互理解)がわれわれの成長には必要不可欠である。

最近読んだ本にレトリック(説得)とダイアレクティック(対話)に関する指摘が興味深かった。私の意見が正しくてあなたの意見は間違っているという相手を説得する技法では実際の場面でそれほど有効ではなく、どちらかというと「自分の意見は本当に正しいのだろうか」をベースにして相手との対話を重視した技法がこれからは重要との指摘だった。産業保健専門職として良好なコミュニケーションを考える際にこのダイアレクティック(対話)が鍵になると最近思っている。

『…正しいことを言うときは 少しひかえめにするほうがいい 正しいことを言うときは 相手を傷つけやすいものだ』(吉野弘「祝婚歌」より)

(石竹達也)

## 九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成24年2月1日

編集正責任者：加藤 貴彦(熊本大学)

編集副責任者：市場 正良(佐賀大学)

編集委員：青木 一雄(琉球大学)

青柳 潔(長崎大学)

堀内 正久(鹿児島大学)

石竹 達也(久留米大学)

黒田 嘉紀(宮崎大学)

佐土原浩子(九州電力 大分支店)

住徳 松子(アサヒビール(株)博多工場)

大和 浩(産業医科大学)

(五十音順)

## (編集事務局連絡先)

〒860-8556 熊本市本荘1-1-1

熊本大学大学院医学薬学研究部

公衆衛生・医療科学分野(担当：西村)

TEL(096)373-5112 FAX(096)373-5113

E-mail: k-public@kumamoto-u.ac.jp